

市民活動を通して考える人権

☎コミュニティ推進課コミュニティ推進係 ☎72-2111

市内では、多くの市民活動が行われています。居場所づくり・こども食堂・環境美化など、人の気持ちを大切に活動する団体も多くあります。その中で「傾聴ボランティア でんでん虫」は傾聴を通して、「おごおりこどもひろば」は子どもの居場所づくりを通して、地域活動をしています。

傾聴は、相手の気持ちに寄り添い、否定せず相手のことを思いながら話を聴くこと。これは、お互いの人権を尊重する第一歩です。また子どもの居場所づくりには、普段と違う環境で過ごすことで、いじめなどの周囲の目につきにくい人権問題を未然に防ぐことができます。2つの活動を知ることによって市民活動の視点から人権を考えていきます。



人権イメージキャラクター
人KENまもる君・人KENあゆみちゃん

「傾聴ボランティア でんでん虫」の傾聴活動

「傾聴ボランティア でんでん虫」は、平成23年に傾聴ボランティア講座の受講生が発足しました。老人福祉施設の訪問から開始し、活動の幅を少しずつ広げています。

メンバーが傾聴活動を始めたきっかけは「人に寄り添うとは何かを考えるため」「コミュニケーションが苦手だから学びたい」など、自分自身のためでもあり、人の役に立てれば、という思いを持っています。

現在はコロナ禍を機に、リモート(オンライン)での傾聴にチャレンジしています。同じ空間にいないことで、相手の雰囲気がかみにくいなどといった課題がありましたが、大きく身振り手振りすることで、場の空気を良いものにし、少しずつリモートでも傾聴ができています。参加した人から「お話しできてよかった」と感想をもらえると、とても励みになるそうです。



▲リモート傾聴を行うボランティア

「おごおりこどもひろば」の子どもの居場所づくり

土曜日や夏休みなどの休校時に、宿題や遊びを通じた居場所づくりをしていて、この活動は保護者の就労支援や家計への負担軽減にもつながっています。

感染症の影響で不定期開催ですが、毎回50人ほどの参加があります。参加している子どもからは「次いつやるの?」と聞かれることも度々あり、子どもにも家庭にとっても必要な場所になっていると感じているそうです。

見守りには、地域の人が多く関わり、その中には小学生のときに参加した中学生もいます。年齢が近い中学生と遊ぶことで子どもたちは居心地が良いそうです。

また、活動に賛同した企業や広報紙などで活動を知った人からは、食材や寄付金が団体に贈られています。居場所での直接的な関わりだけでなく、多くの支援で子どもたちを見守っています。



▲一緒に勉強する子どもたち

今回紹介した団体を含め多くの市民活動団体は、根本に人に寄り添うことをテーマとして活動しています。身近な家族や友人の話を相手のことを思って聴くことや、日頃から人に寄り添うことを意識して過ごしてみませんか。